

第4回富山市浸水対策基本計画検討委員会

1. 概要

日時：令和7年1月16日（木）14：00～15：40

場所：富山市役所本庁東館（南側）第3委員会室

出席者（敬称略）：

委員長	尾崎 平
副委員長	呉 修一
委員	北岡 勝
委員	吉澤 実
委員	上田 祐正（欠席）
委員	永森 雅之
委員	佐藤 保之（代理：藤本 昌利）
委員	森田 仁（代理：金森 賢一郎）
委員	根上 幹雄
委員	桶谷 裕二（代理：渡辺 大輔）

2. 議事録

(1) 第4回検討委員会における協議事項

特に意見なし

(2) 第3回検討委員会（R6.3.13）における意見及び対応方針について

特に意見なし

(3) 「1.段階的対策方針の検討」について

- | | |
|------|--|
| 委員長 | ： 段階的対策方針の検討について、意見はございませんか。 |
| 副委員長 | ： 本郷第一排水区について、現在整備中の施設が完了しても、浸水しやすさが一位という認識になるのでしょうか。確認したい点は、しっかり整備したとしてもまだまだ浸水しやすさが残るのかということです。 |
| 事務局 | ： 現在の計画降雨に対する整備であり、気候変動の影響及び排水区が広く、別の箇所で浸水が発生しているため、浸水しやすさは一位となります。 |

(4) 「2.段階的対策計画の検討」について

- 委員長 : 段階的対策計画の検討について、意見はございませんか。P19 がまとめになります。第 1 期の 10 年間に A 地区の 7 排水区の床上浸水が想定される地区について解消を図る、第 2 期は A 地区における床下浸水の低減を図ることを目指す計画となりますが、いかがでしょうか。
- 副委員長 : これまでの事業費の比率が第 2 次富山市上下水道事業中長期ビジョンの年平均事業費に対して 1.3 倍ということで、現状の 13 億円に対して今後 17 億円の投資は可能な金額でしょうか。
- 事務局 : 財政部局と協議した上で設定した金額、可能と考えています。
- 委員 : 計画期間は 20 年間であり、前期・後期で分けはありますが長い期間の計画です。挨拶でもあったように、令和 4 年や令和 5 年には計画規模を超える降雨により大きな被害があったところです。この先 20 年の間に、現在想定していない場所で被害が発生した場合、又は段階的対策計画にあがっていない地区で浸水被害が発生した場合、対策地区や対策内容をどのように考えていくのかお聞かせください。
- 事務局 : 基本的には 5 年ごとに計画の見直しを考えています。最初の 5 年は進捗管理やフォローアップをしながら進めます。10 年目以降については、具体的な計画は示していませんが、その間に発生した大きな浸水被害があれば、優先順位の見直しも含めて再設定することを考えています。
- 委員 : 段階的対策計画にあがっていない地区も含めて見直すということでしょうか。
- 事務局 : そのとおりです。A 地区、B 地区の区分設定も含めて見直しを検討する考えです。
- 委員 : P11 で、本郷第一排水区は浸水しやすさが残るとされています。今の計画では 10 年、20 年を見据えた計画ですが、言い方を変えると、20 年間浸水しやすさが残る計画なのではないでしょうか。もう一つ、P15 のネットワーク管については、降雨量が多い時に施設を活用する考えでしょうか。3 つ目に、縦断的に自然流下で流す計画でしょうか。強制排水機能を見込むことが可能であれば、最初の本郷第一排水区においても対策案とならないでしょうか。
- 事務局 : 1 つ目について、現在整備中の本郷第一排水区は、これまでに浸水が起こっている箇所を現計画降雨に対する対策として実施してい

- きます。次に、現計画降雨に対する本郷第一排水区の整備が完了後、令和 12 年度から新たな計画降雨を対象として、床上浸水の解消のための浸水対策を実施します。2 つ目のネットワーク管は、能力の不足箇所に対して、能力に余裕がある排水路がある場合に限り、余裕がある排水路で放流先河川まで流下させる考え方としています。
- 委員 : ネットワーク管では、通常時に水は流れない認識でよろしいでしょうか。
- 事務局 : 設計検討しないと確実なことは言えませんが、基本的な考えはオーバーフローした水をネットワーク管に流すので、通常時は水がない状態となります。3 つ目については、市内でも強制排水が必要な地区は確かにあります。河川の水位が高すぎてポンプを設置しなければ排水できない場所は、外水要因の浸水として整理しています。例えば、畑中地区では、神通川の水位が高すぎる場合に、河川からの逆流が考えられることから、強制排水ポンプを設置して神通川に水を流す対策も必要と考えています。基本的に、それ以外の排水区は、自然排水で流下させる計画です。
- 委員長 : 本郷第一排水区は、整備が進んでも 20 年後に床下浸水が残るという理解になるのでしょうか。第 1 期の 10 年間の対策により、床上浸水は解消するということでしたが、床下浸水はどうなるのでしょうか。
- 事務局 : 令和 18 年度には本郷第一排水区の床上浸水は解消しますが、床下浸水については、残る部分も出てきます。
- 事務局 : 床下浸水は残るという表現にはなりますが、P18 に床上解消戸数を示しており、括弧内は床下浸水や敷地内浸水も含めた解消戸数です。例えば本郷第一排水区では、今後 10 年間で 5 件の床上浸水を解消します。その対策の副次的な効果として、周辺の床下浸水や敷地内浸水も含めて 83 件の浸水が解消することを想定しています。
- 委員 : 47 排水区の対策にあたり、優先順位が必要なことはよくわかりませんが、具体的に 47 排水区の地域名が公表されると住民は不安を感じるところです。10 年たっても床下浸水が解消されないのかということになると、住民の不安は膨らんだままになります。こういった資料を公開する時は、上手に説明いただかないと住民の不安の解消にならないと考えるので配慮いただければと思います。
- 事務局 : ありがとうございます。
- 委員長 : 住民への説明や周知の仕方は非常に大事になると思います。今の議

論は、あくまで計画規模の降雨を対象として床上・床下浸水の話をしているので、おそらく令和 4 年の豪雨のように計画規模を上回る大きな降雨では、床上浸水が発生してしまうことは十分あり得ることであり、その点の説明や周知の仕方は上手く工夫していただければと思います。先ほどもあったように外水要因ということで、放流先の影響を受けるとはと思いますが、国や県の河川の計画降雨や整備状況に対して整合は図っているのでしょうか。

事務局 : 国や県の河川整備計画に基づいて、放流先の河川の条件を設定して検討しています。

論点 3 について事務局説明

委員 : P24 のオンサイト貯留の考え方について、ケースとして少ないかもしれませんが避難所が対象となった時に、グラウンドにも貯留されるのでしょうか。

事務局 : 今はその条件で検討しています。

委員 : 避難所となる学校のグラウンドに貯留することは、問題があると考えます。今後、小中学校の統廃合ということになった場合に、避難所として利用できる学校は少なくなることが考えられます。また、高齢者は歩いて避難することが難しいため、車での避難も考えられます。基本は歩いて避難ですが、駐車場が不足する時には、グラウンドに駐車する考え方もあるので、慎重な配慮と協議が必要と考えます。

委員長 : グラウンド貯留は教育委員会との協議も含めて実現可能性はあるのでしょうか。

事務局 : 教育委員会とは協定を結んで進めていく方針です。グラウンド貯留は新規の方策ではなく、過去にも取り組んできたところではありますが、いただいた意見も踏まえまして、避難所を指定している防災部局とも協議しながら対応を検討していきます。

委員 : 今の件で、グラウンドや公園は、最大でどのくらいの水深となるのでしょうか。

事務局 : 20cm 程度の水深で貯留することを条件として設定しています。

委員 : 強制的に水を入れる訳ではなく、溢れた水を貯めるということでしょうか。

事務局 : その地点で降った雨が排出しないように貯める考え方になります。

委員長 : 実績として 10～30cm の貯留水深で運用しているのでしょうか。

- 事務局 : 運用している実績の数値になります。例えば、呉羽小学校ではもともとグラウンドが低くなっており、駐車場にも避難場所にも使用できない状況となっていますので、車での避難にも影響はないと考えます。そういった状況を鑑みながら検討していきます。
- 委員 : P28 で水田貯留について、必要な費用は年間事業費として見積もっている 17 億円の内数でしょうか。
- 事務局 : ソフト対策については外数で考えています。
- 委員 : 17 億円の外数であれば、優先順位を考えず、できるところからやっていくのでも良いのではないかと思います。優先順位を付けた理由はあるのでしょうか。
- 事務局 : 後ほど財政計画で説明しますが、大きな理由の一つは思ったよりも費用がかかるという実情があり、B/C についても考慮しながら進めていきたいと考えています。それから順番の考え方としては、優先順位が高い地区から集中的に投資して進める考え方もありますし、優先順位が低く、ハード対策がすぐに来ない地区の浸水対策を底上げする考え方もあります。いずれにせよ、かなり年月がかかる計画になりますが、学校や水門、水田が、多く存在する排水区もあれば全く存在しない排水区もあるため、意図したとおりに集中投資や底上げの考え方を適用することが難しい状況でした。このことから現在は、費用対効果の観点で、整備効果が高い排水区から進める方針を考えています。
- 委員 : 年間事業費 17 億円の外数ということでしたが、地区の事業費として B/C のコストの部分には含んでいるのでしょうか。
- 事務局 : 先ほどの費用対効果の計算には含まれていません。
- 事務局 : B/C のコストは、あくまで計画降雨に対するハード整備の費用のみを対象としています。照査降雨に対しては、基本は計画を上回る対策の費用という考え方で B/C のコストには含めずに計算しています。
- 委員 : 先ほどの説明で B/C の観点に触れられていたように思いますが。
- 事務局 : 水田貯留の取り組みについては、どうしても水田所有者へ協力をあおいで進める必要があります。上流部において水田貯留を実施することによって、下流部では浸水被害軽減の効果があることを示しながら、水田所有者に事業への理解をいただくことが必要不可欠であり、合意形成のための一つのポイントと考えています。そういった視点を踏まえると、まずは対策効果が高い地域、下流側で浸水被害

- の発生リスクが高い地域等を対象として取り組んでいく必要があるため、このような整理の仕方をしています。
- 事務局 : B/C の発言については、7 排水区の B/C は国の補助を得ることを主目的に算出しており、ソフト対策は市の財政部局へ説明することを目的として算出しているものになります。
- 委員 : B/C の意図が異なるということですね。理解しました。
- 委員長 : 照査降雨の対策費用について、予算規模や年度ごとの予算の想定はあるのでしょうか。
- 事務局 : この後の説明で出てくる話題になりますが、なるべく平準化するイメージです。対策の種類ごとに単価を設定し、それを踏まえて対策を交互に実施することで費用が集中しないように進めていくことを考えています。
- 副委員長 : 水田貯留の多面的交付金は、今も交付しているのでしょうか。
- 事務局 : 水田貯留の多面的交付金については、現在は実施していません。
- 副委員長 : 新しく実施するのでしょうか。
- 事務局 : 仕組みを活用して、今後普及を進めていく考えです。
- 副委員長 : グラウンド貯留は、各学校の生徒の意見も考慮してほしいと考えています。各学校によって賛成・反対の意見は違うと思いますので、対話が大事と思っています。それから、水田貯留の効果順位は、河川流域ごとの順位と思いますが、どのように算定しているのでしょうか。河川流域内の水田で水田貯留する条件で、流域内の排水区の浸水の減少を評価しているのでしょうか。
- 事務局 : 浸水被害の低減面積に基づく順位付けについては、A 地区・B 地区双方の低減効果を把握する必要がありますが、B 地区における定量評価は困難ですので、今回は放流先河川単位での A 地区の数を集計し、その総合得点をもって順位付けしています。例えば、いたち川では、放流先となる A 地区が 4 地区で、その総合得点が 0.04734 と最も高くなり、宮路川では放流先となる A 地区が 2 地区あり、その総合得点が 0.04017 となって、2 番目だったところです。このように、接続する A 地区の総合得点をもって河川毎の順位付けをしています。
- 副委員長 : 理解しました。グラウンド貯留のように浸水深の減少で評価しなかったのは、効果が少なかったのでしょうか。
- 事務局 : A 地区であれば詳細シミュレーションモデルを構築しているため、

浸水想定を評価できますが、**B** 地区については詳細シミュレーションモデルを構築しておらず、浸水想定の評価ができなかったところです。このことから、**A** 地区の浸水想定の評価だけでは水田貯留による河川流域単位での効果把握は困難なため、今回のような評価方法としています。

副委員長

: コメントになります。照査降雨で評価していますが、計画降雨であればもっと効果が出ると思います。今は分けて議論していますが、計画降雨に対しては、もっと効果が出るということは住民にアピールしてほしいと思います。

委員長

: **P26** の農業用水門の管理の自動制御化・遠隔化について、水門の操作方法として遠隔化と手動という表現がありますが、今後、スマート農業のような形で、水門が自動化されるという前提でしょうか。手動と記載の箇所について運用方法をどのように考えているか、お聞かせください。また、水田貯留やグラウンド貯留の効果は照査降雨の **98mm** に対して、水田面積を差し引いてシミュレーションしていますが、その前提は、降雨のピークを水田やグラウンドに貯留できることになります。緩やかな降雨で先に貯留してしまうと、降雨のピーク時に満水になってしまうことも考えられます。水田貯留やグラウンド貯留は、少雨で貯留させずに、ピークに効かせる方策があれば可能ですが、良い方法があれば聞かせてください。現時点で方策がないのであれば、慎重に説明していく必要があります。

事務局

: 最初の質問であります水門の操作方法については、**P26** でも示している通り、現状では手動または遠隔のいずれかとなっています。これらの水門について、今後遠隔化・自動化していきたいと考えていますが、対象となる水門すべてを遠隔化・自動化するためには費用面での課題もありますので、まずは遠隔化に取り組み、その後自動化に進んでいきたいと考えています。現在、本市で操作している水門の中には一部遠隔化している水門もありますので、基本的には一律遠隔化を目指し、その後のステップアップとして自動化に取り組む方針です。2つ目の、水田貯留やグラウンド貯留の効果把握の考え方として、今回採用しました面積を差し引く方法については、ご指摘の通り、長雨が続くとピーク時にオーバーフローして効果がなくなるという懸念が実際にはありますので、少雨では貯留させないような排水口の形状等を工夫する等して、シミュレーション上の効果を再現する取り組みや、ご指摘のあった状況を再現できるシミュ

- レーション手法を取り入れて、貯留による効果把握の方法を再考する等、今後の計画見直しのタイミングにおいて、改めて整理していければと考えています。
- 委員長 : 実際に対策を行う時に、ピークカットを可能とする機能について検討いただければと思います。
- 委員長 : 国や県の立場で流域治水の観点について、補足やコメントはあるでしょうか。
- 委員 : 河川管理者として直接、水田貯留を進めることはありませんが、農政部局としては水田貯留に興味を持たれているところです。取り組みを進めていく上で、関係者への動機付けに向けて今年予算がついたところで、これから広めていく状況です。
- 委員 : 水田貯留については市の担当部局とも話はされているのでしょうか。
- 事務局 : 本検討委員会の下部組織としてワーキンググループと幹事会を設けており、農村整備課に関係部局として入っていただき話し合っています。実際にソフト対策を進める際には、個別に協議して進めたいと考えています。
- 委員 : 水田貯留について、新潟県や石川県では、令和 4 年に大きな出水があった後に、流域治水の取組をあらゆる関係者で検討しています。地域によって水田貯留の効果の見込み方は様々ですが、どの地区も取り組む方向では進んでいると聞いています。富山県内では、富山市が先導的に取り組みを進めていただける形になるのは非常に良いことと考えています。
- 副委員長 : そういう観点でも優先順位付けをして、成功例があると良いと考えます。まだ準備期間はあると思うので、詳細シミュレーションをして、住民に結果を見せながら進める成功例があると良いと思います。注意が必要なのは、やっても意味がない流域で、やりたいと言われた時には最初に説明が必要と考えます。

(5) 「3.財政計画の検討」、「4.目標達成を評価する指標」、「5.富山市浸水対策基本計画マップ」について

- 委員 : 水門の自動化は 1 基 2000 万円となっていますが、整備の主体は土地改良区でしょうか、富山市でしょうか。
- 事務局 : 富山市主体で取り組むことを考えております。
- 委員 : 土地改良区の施設であっても富山市で実施するのでしょうか。
- 事務局 : 浸水対策上効果のある水門については、富山市主体で取り組むこと

- を考えております。なお、所有を土地改良区のままとする場合は、管理協定を締結して運用していくことを考えています。
- 事務局 : なお、自動化・遠隔化としていますが、**2000** 万円は遠隔化した時の費用です。
- 副委員長 : 富山市浸水対策基本計画マップを作成して、公表するのは良いと思います。うまく結果が出ていることを示しながら、住民も一緒に取り組んでいることがわかるような工夫をしてもらえればと思います。難しいとは思いますが、行政の堅い図ではなく、市民向けの少し柔らかい図などで示せればと思いました。**20** 年という期間の中で、これだけ進んでいるということを示す、市民向けの達成度があると分かりやすいと思いました。その反面、**20** 年間の対策地区に含まれていない地区では、不安につながるかもしれないので、工夫が必要です。
- 委員 : マップについて発言します。せっかくこのように詳しく丁寧に計画を策定いただいたところで、**P34** に市民等にわかりやすく見える化、わかりやすい表現に配慮、とあるように、市民に安心を与えるために、住民がマップを使って、効果的に身につくような使い勝手の良いマップにできれば良いと考えます。わかりやすい表現は重要と考えていただければと思います。
- 委員 : ぜひ、富山県防災士会としてもマップを活用していきたいと思います。富山市がこのマップで何を見てほしいのか、ということを明記してもらえれば、富山市の考えはこうなので、というように伝えることができ、市民が見るときにわかりやすいと思います。
- 副委員長 : 例えば、計画の進捗により浸水がだんだん減っていくというようなことがきれいに表現できれば良いと考えます。市役所だけでなく、住民や研究機関、防災士さんも含めて考えていければ理想だと思います。**20** 年という期間で進めるので、やりながら面白く、楽しくできるように、研究機関としても機会を考えていきたいところです。
- 委員 : 例えば、富山県の **15** 市町村の洪水ハザードマップは複数河川の最大浸水深しか表示されていません。それに対して、当該地区の河川が決壊した時の被害は、国や県から出ている河川別の浸水想定区域図を見ると大変分かりやすいです。実際、離れた地区の浸水想定が気になることは少ないので、洪水ハザードマップよりも河川別の浸水想定区域図の方が便利かなと思います。よく富山市のホームページを活用させていただきますが、河川別の浸水想定区域図にはな

かなか辿り着きにくいです。ここをクリックしたら河川別の図面が表示されます、と案内があれば便利と考えています。今回のマップでもエリアは分かれています、ここがこうなったら、こうなりますというようなことが分かる工夫ができればと思います。

委員

: 農業分野では、農業用排水路を直して水路から水が溢れないようにすることが時々あります。その際に、地元の農家の人は、溢れてはいないが、満水になってしまっているという状況をずっと見ていて、改修したことで今までよりも水位が下がったという効果を実感されるようです。庄川の左岸で農地を潰して大きな遊水地を造りましたが、その下流で水位が下がったことを農家の人は実感されていません。農家の人は当初、農地を潰すことに反感もあったようですが、効果がわかったことで、その後も同じように農地から遊水地にすることが進んだということがありました。地域の危険な箇所や河川をよく見ている方に、意見を聞く形で、体感をレポートしてもらい、溢れそうだったものが、そこまで水位が上がらなくなったという情報があると、長い目で見て実感に繋がると考えました。浸水が起きないのが当然良いわけで、検証は難しいと思いますが、あえて発言させていただきました。

委員長

: 下水道では昔、管渠の中には水位計はないのが普通であり、下水道管は地下施設なので、管渠の水位は全然わからない状況でした。最近では水位計をいくつかの地点に設置することも多くなっています。目的の一つはアラートを出すことであり、水位を観測して早めにアラートを出せないかという考えから始まっています。そういったもので得られた情報を積極的に公開することで、同規模の雨で対策を行った後にこれくらい水位が下がったという発信を行っていくことが大事なことと思います。下水道は河川に比べて、水位の測定という観点では遅れているという認識ですが、そういうことも上手く活用しながら工夫していければと考えます。せっかくマップを作るので、ソフト対策としてマップの活用も取入れてもらい、出前講座もメニューにありましたが、例えば、富山県立大学の学生とワークショップをしてもらって、どういった情報があると良いか、今のマップは専門家向けで市民には硬いのでランドマークを入れるなど、議論をするにはどういう情報が必要か、という点も含めてバージョンアップをしていけると良いと思います。どのくらいの頻度で更新するかというのもありますが、浸水が解消されたことを表現するなど、うまくコミュニケーションが取れるツールにしたい

ければ良いと思います。新たに施策の追加と言う形で検討いただいても良いかと思います。また、KPI について、A 地区の浸水被害の床上浸水戸数の解消割合がありますが、対策が終わった箇所の効果を毎年シミュレーションするのでしょうか。

事務局 : 基本的には、前期と後期の各段階、5 年ごとの確認という形を考えています。

委員長 : 床上浸水解消戸数はシミュレーションにより確認するものと思いますが、この段階で、5 年後の進捗を見据えて予定調和的にシミュレーションしておくのでしょうか。5 年後に実績と計画で差が出ると思います。改めて 5 年後の段階でシミュレーションを行うのでしょうか。

事務局 : ある排水区において、対象となる施設整備が終われば、その排水区で想定していた浸水戸数は解消されるといった考えであり、そういった排水区ではシミュレーションをしなくても想定していた床上浸水は解消と判断できます。一方、5 年後において施設整備が完了していない場合には、シミュレーションにより部分的な対策の効果に配慮しなければならないと考えています。このような形で KPI は設定していますが、運用の仕方として簡易的に評価できる指標があれば今後の見直し等の中で反映していくことも必要と思います。

事務局 : 今のモデルは幅 600mm 以上の排水施設が対象であり、少し概略的なモデルとなっています。対策に挙げている 16 排水区では現時点のモデルに加えて、今後の測量や詳細設計を反映することで、更に高度化する見込みです。今の KPI の戸数が若干前後することもあると思われますが、それについては 5 年ごとの計画の見直しで、事業の進捗も含めてフォローアップで確認していきたいと考えています。

委員長 : 照査降雨は運用割合という表現で、計画降雨は解消割合とされていますが、計画降雨に対しても実施計画に対する進捗を KPI とする考えもあると思います。進捗により着実に浸水が減ることになりますので、改めてシミュレーションをして解消割合を求める意義がどれくらいあるかと思ったところです。計画が確実に進めば解消されるということであれば、あえて 5 年後にシミュレーションをしなくても良いのではないのでしょうか。

事務局 : 計画降雨については、アウトプットを評価したいという思いで設定しています。ご意見いただいたように、費用の観点も踏まえると、インプットを指標とすることも十分候補と考えます。

- 委員長 : 管渠内に水位計を設置している場所はあるのでしょうか。効果の検証として、整備が進んだことで同規模の降雨に対して水位の低減が見られたということでも検証になるので、ご検討いただければと思います。
- 委員長 : 財政計画について意見はありますか。
- 委員長 : 議事としては、全ての事項について事務局より説明いただきました。全体を通じて皆様から意見はあるでしょうか。
- 委員 : 対策される地区は良いですが、対策が先になる、または対策の対象から外れている地区もあると思います。これ以外の対策もあるということでしたが、そういった点で見捨てないというアピールと住民への説明を行っていただければと思います。
- 事務局 : 資料 5 は本計画の原案であり、今後パブリックコメントを実施する予定としておりますが、「はじめに」の章の表の中で、現在本市が取り組んでいる浸水対策として、ハード対策とソフト対策とに区分して、①から⑥の項目を挙げています。建設部と上下水道局とで役割分担して取り組んでおり、ハード対策については、外水対策として都市基盤河川や準用河川の整備、内水対策として下水道事業を活用した抜本的な対策に加えて、道路事業、単独事業を活用した浸水被害軽減のための局所的対策、さらには既存施設の維持管理及び老朽化対策にも取り組んでいます。また、ソフト対策についても、外水対策として、洪水ハザードマップの作成や水位計・雨量計の設置、水田貯留等、内水対策として、グラウンド貯留や内水ハザードマップの作成、水位計・監視カメラ設置等に取り組んでいるところです。今回の計画では、赤色で示している、主に下水道事業に関する浸水対策のマスタープランとなっています。よって、今回の計画において優先順位が上位にならない地区でも、それ以外の対策については引き続き継続的に取り組む方針であり、浸水対策を全市的に取り組む方針は変わりませんので、その視点も含めて市民の皆様には丁寧な説明を心がけていきたいと考えています。
- 副委員長 : 検討委員会の議題からは少し外れますが、今回詳細モデルを構築してもらったのは富山市の宝と思っています。**B-DASH** プロジェクトでリアルタイムの浸水予測というものもありますが、今後 10 年、20 年すると、富山市クラスの都市では、リアルタイムの浸水シミュレーションができる時代になると考えています。今回のモデルと **B-DASH** の組み合わせでも良いと思いますが、他のことにも派生できるような取り組みや今回構築したモデルを 20 年間バージョンア

ップしつつ拡張できるような取り組みをぜひお願いします。

(6) 今後のスケジュールについて

委員長 : スケジュール及び全体を通じて、ご意見があればお願いします。
特に意見なし

委員長 : 予定されていた議事は以上になります。貴重なご意見を受けて無事に終了することができましたこと、感謝申し上げます。進行を事務局にお返しします。

事務局 : 尾崎委員長、ありがとうございました。今回の計画に関する検討委員会は本日で最後の予定としています。今後、パブリックコメントの意見によって修正の必要が生じた場合には、もう一度開催させていただく可能性もあると思いますが、計画の内容については、一区切りとなります。今後は、議論いただいた流域治水の考え方について、本計画の策定を契機に、より一層、市民に拡大・浸透していくように、各施策を確実に実施していきたいと考えています。皆様には令和4年から本計画策定にご協力、ご支援いただき、改めてお礼申し上げます。約3年間ありがとうございました。

事務局 : 本日の議論の内容は事務局で取りまとめ、後日報告しますのでよろしくお願い申し上げます。資料5の富山市浸水対策基本計画(案)は、これまでの検討委員会での議論の取りまとめであり、パブリックコメントの原案となるものです。本案に対して皆様のご意見を反映したいと考えていますので、1月末までに事務局までご意見をいただければ幸いです。以上をもちまして、富山市浸水対策基本計画検討委員会を閉会させていただきます。本日はお忙しい中、長時間のご審議ありがとうございました。